

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で支え、協力しあいながらをモットーに職員個々で考え、その後集約して独自の理念を作り上げ、見やすい場所へ掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示しているものの、1つ1つの理念には大きな意味があり、その内容について管理者から提示し会議等で職員へ説明し共有している。又、事業計画の中でも重点目標を掲げ共有とケアに活かしている。	○	理念を唱和し、意識向上に努める。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関への掲示、運営推進会議、毎月のお便りを通じ情報提供をし、理解して頂くよう努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	今年度より区長さんが畑作業をボランティアとして受け入れて頂き、職員とも気軽に会話しお互いに情報交換をしている。又、地域への行事等の誘いもして頂き、GHの事情も理解して頂いている。	○	立地条件もあり、難しいものの今後も家族の方々やボランティアの方々を通じて積極的な取り組みが必要である。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアさん(毎月1回)来園し昼食等作って頂き、入居者との交流を深めている。小学校への雑巾寄贈、夏祭りの参加、慰問、地域行事(踊り、他施設との交流)	○	地域行事をリサーチし、行ける催しには参加出来るよう計画を立てる事が今後求められる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>GHの理解を示して域、地域の方々と共に暮らして良かった、安心したと言われるような相互のプロセスや、コミュニケーションが不足している。</p>	○	<p>GHは地域密着型サービスに位置づけられており、今後、区長、民生委員の協力を得ながら安心して生活して頂く為への、アプローチを提供していく必要がある。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員個々に自己評価を行い、評価を基に実践に向けた取り組みを職員会議等で話し合いを持ち取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、近況報告をし意見や情報交換を行い共有に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホーム独自で立ち上げている委員会活動の発表会に参加して頂いたり、研修会の講師として来て頂き相互の情報共有、交流を持ち質の向上へ繋げている。介護相談員(今年度9月実施)の訪問がある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在入居されている方々は、特に制度等の必要はないものの、今後直面する事も十分視野に入れ制度等のしくみについて研修していきたい。</p>	○	<p>今後、研修会を設け制度等のしくみについて理解、活用出来る体制を整えると共に勉強していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>運営推進会議等を通じて情報提供している。虐待とはどういう事かを、職員個々が理解しケアに努めている。メディア等の報道を通じ、それを基に管理者より職員へ指導等受けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、又、解約の際には事前に家族へ説明を十分に行い、理解、納得して頂いている。(混乱、焦燥感のないように)</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者とのコミュニケーションの中で、個々の思いを話して頂いたり、引き出す事で気軽に何でも話せる環境作りに着手している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便り、運営推進会議、面会等通じて近況報告を行っている。又、緊急時には、その都度連絡している。金銭は個々で所有している方はいなく、ホームで金庫管理しており、随時帳簿確認して頂いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口、苦情箱を設置している。又、面会時、運営推進会議、家族アンケートを通じて意見を吸い上げ職員会議等で話し合いをしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の代表者会議を通じて事業所内の報告を行っている。職員会議(月1回)を通じて管理者より提示された内容等について話し合い共有している。個人面談の実施(年2回)</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員個々の希望休を考慮し勤務表作成している。しかし、緊急時にも対応出来るよう勤務作りがされており、連絡網にて連絡を取り対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当ホームは社会福祉法人で運営されており、多くの事業所がある。入居者の混乱がないよう異動、離職等ないように働きかけている。やむを得ない場合にはきちんと説明し、ダメージが少ないよう努めている。</p>	<p>○ 個人面談にて経緯等説明している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内外への研修会の参加。参加するに当たっての勤務調整を行い、参加しやすい環境を作っている。ホーム内の研修委員会により計画を立て内部研修の実施。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協会での県定例会参加。GH協会での両磐ブロック定例会参加。行事を通じて他事業所との交流を持っている。(桃狩り)</p>	<p>○</p> <p>他事業所との交流が少ない為、今後交流の場を設けお互いが刺激出来るようにしていきたい。職員の交換研修を行い、質の向上に繋げたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内、ホーム内で年数回職員間の交流会を設けている。個々の休みを利用して、リフレッシュしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度の導入にて、自己評価を個々に行って頂きその後、上司評価している。個々の振り返りを行う事で働く意欲を向上させている。個々にあった研修会への参加を促し、向上心を持つよう働きかけている。</p>	<p>○</p> <p>資格取得制度別報奨金。人事考課制度。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に調査を行い、思い、気持ちを伺うがなかなか本音は難しい。家族を通じて情報提供して頂き、入居判定会議にて検討し合っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に調査を行い、家族としての思いを確認している。入居した際には、家族の協力性も必要な事も理解して頂き相互に共有して頂いている。ケアマネを通じて、情報交換も行っている。(経過等について)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は随時受けている。在宅での暮らし、GH入居したいが、なかなか入れない為、他サービスについて助言したりGHの使い方についても情報提供している。他ホームとの関わりをふまえた後で、GH同士での協力体制もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に一旦ホームを見学して頂く事を進めている。又、GHとしての雰囲気、居室等他入居者との関わり等確認して頂き、本人が安心して暮らせる環境作りに取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に同じ空間の中で生活する事で、日常会話、食事、余暇活動を通じて理解し合っている。お互いに気兼ねする事なく、助けたり助けられたりと良い関係性が充実している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を設け、本人、家族、家族同士が常にとけ込んでおり、コミュニケーションを図る取り組み、環境作りを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報提供を密に行い、本人との関係が保てるよう支援している。共に参加出来る行事の実施。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古里訪問時、友人の方々に集まって頂き交流を深めている。(家族の協力有り)デイサービス利用の友人も何度か面会に来られ、世間話をしたり楽しく過ごされている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で出来る事、又は個々としての生活リハビリの一貫として行って頂き、生活の場が食堂を中心とし個々が関わりあえている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	GHから離れ、特養へと異動するといったケースはあるが、様子を見に行ったりしている。又、以前の入居時の様子とか聞かれた事もある。現在は契約終了になるとリセットしてしまう事が現状である。	○	契約終了になると、なかなか前へ進むという事が難しい。今まで共に生活して来ただけに付き合いという事も大切、誇りに思い、良い関係性が今後も保てるようにしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議での意見交換を行ったり、家族、本人からの思いを聞き、ケアプランに反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや家族からの情報を基に、本人が今まで通り生活出来るように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りを通じて、1日の様子(個々)を把握している。バイタル測定、排泄、食事等チェック表を作成し記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族を交えてのカンファレンス(年2回)を行い、その後職員会議にてプラン検討している。その後、プラン作成する。家族希望も取り入れている。	○	家族もケアの一員として情報を共有して頂いている為、今後もカンファレンスへ参加して頂く為のアプローチを継続していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態を把握し、職員会議でカンファレンスを行い、検討事項を明確にしモニタリングしている。家族希望も取り入れている。	○	今後は状態に応じた新たなケアプランが必要となる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を通じて、互いに共有し特記についても申し送りにて情報を共有する。申し送りノート、薬(通院)ノートの活用。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日課は設けていない為、個々の要望に応じて対応出来るよう勤務体制を整えている。状況に応じては、法人全体でのバックアップ体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回ボランティアの方々が訪問され、郷土料理を作って頂き、会食を通じて交流を深めている。救急救命等の研修を消防署へ依頼し講習を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ADLの低下、医療行為が必要となった場合は、他事業所と、家族と話し合いを持ち他のサービス利用を提供している。(入所申し込み事前に行っている)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在殆ど行っていない。	○	今後は相談等視野に入れ、相互理解を得ながらシステム作りを行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ定期受診する等協力して頂いている。又、緊急時には対応可能な医療機関と連携がとれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	各医療機関、ホームとの連携が必要である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	禁句マニュアルの作成。個人情報保護についての研修会の実施。(共有強化)日々の記録は職員が確認した後、シュレッター処理。保存書類等については、鍵付きロッカーにて保管し鍵も管理している。個人名の入っている葉袋も都度シュレッター処理。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自発行為を尊重し、本人の訴え、思いを引き出す支援を行っている。	○ コミュニケーションを通じて思いを聞いたり、話せる環境作りに取り組んでいるが、遠慮している入居者もいる為、気軽に話せる取り組みが必要である。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、リズムを尊重する事で自発行為を引き出し、無理強いせず思いを大切に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの理容店に行っている。本人に合った服装をコーディネートし、本人への楽しみになるよう取り組んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好み、状態に合わせて調理している。又、一緒に台所に立ち作る楽しみ、役割を持って頂いている。メニューも季節の物を取り入れ提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の誕生日には、本人の希望するメニューを提供している。又、お茶だけではなく、ジュースや手作りおやつ、季節の物を提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄マニュアルの作成。排泄表を基に個々のパターンを把握し、声掛け、誘導等を行っている。(無理強いせず)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の制限は行っていない。しかし、入浴の間隔を確認し、その日の状態(バイタル)に合わせて対応している。夜間浴の実施。(毎日)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	週1回のリネン交換の実施。個々のペースを大切にしながら休んで頂いている。眠れない方については、一緒に添い寝をする等安心して休んで頂く等のサポートを行っている。	○	時間で休んで頂いている面もある為、本人の希望ももう少し取り入れる事が必要である。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態に応じて、出来る事は行って頂き役割を持って生活して頂けるよう支援している。(洗濯物たたみ、草取り、雑巾縫い、食事作り等)潜在能力の活用に着手している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々に管理しておらず。又、金銭に対する訴え等はない。ホームで管理(預かり金)し、本人の希望に応じて使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気軽に本人の希望を取り入れ、自由に出掛けられるよう支援している。(所在確認の徹底)家族の協力もあり、外出、外泊も多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節により、ドライブに出掛け目、肌で季節を感じて頂けるよう取り組んでいる。(刺激性を求めて)家族と一緒に出かけられる行事等を企画、実施へ繋げている。古里訪問の実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、家族、本人間を取り持ち電話対応している。又、かかってきた場合も取り持っている。個々にハガキであったり、手紙であったりくる事も多い為代読する等行っている。(楽しみの1つにもなっている)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者も多く、思い出すまでに時間を要するが、やはり逢う事で良い刺激を頂いている。(居室にて過ごして頂けるようにしている)玄関回り、花壇、ベンチ等を整備し雰囲気作りに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは職員個々にきちんと理解出来ている。チェック表を作成し毎日確認している。家族に対しても入居時説明し理解、了承を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠チェック表を作成し、毎日確認している。入居者に対する拘束(行動制限)ととらえており、自由に過ごして頂ける支援を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	状況に応じて見守りを行い、職員間で連携を図り業務間での優先順位を即決し、所在等の確認を行っている。夜間も巡視を徹底し、安全、早期対応に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて物品等ホーム管理し、使用する際には見守り、介助等行い安全に努める。取り除くという行為については、家族の承諾を得ている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルの作成。合同委員会にて話し合い、リスクマネジメントについて職員間で防止に向けた取り組みを行っている。避難訓練、老人無断退去等の訓練の実施。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>マニュアルの作成。救急救命、AEDの講習会。研修会を通じて職員全体で対応出来るよう取り組んでいる。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルの作成。避難訓練の実施。防災物品の設置。非常食の実施。(万が一に備え、入居者との食への共有)</p>	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>個々の状態を家族に説明し、理解して頂いている。事故が発生した際には、状況説明し連絡にて謝罪している。又、事故報告書の作成、説明、家族確認印頂いている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタル測定の実施。(朝、夕)状態に応じて随時測定を行い対応している。申し送りを通じて情報を共有している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬一覧表を作成し、変更、中止等の際は訂正し、常に最新の情報を共有している。薬の一包化。通院ノートにて個々が確認出来るようにしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎朝の牛乳(オリゴ糖使用にて)排泄表を基に、個々の状況に合わせた対応(整腸剤、下剤)調整している。医療との連携。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの実施。(声掛け、一部介助、全介助)自立している入居者への声掛け、見守りの実施。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分量を把握し、必要に応じて代替え、水分確保に努めている。状態に応じた食事の提供。管理栄養士へカロリー計算を依頼し、助言、指導等頂いている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルの作成(フローチャート)手洗い場へ提示し、常に意識付け。面会者にも口頭説明し協力して頂いている。保健委員会があり、会議等での再確認の実施。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>毎日買い物を行い、新鮮な食材を提供し使い切りを原則とし残さないようにしている。食器類も乾燥器に入れ熱消毒している。チェック表の活用。(衛生管理表)。調理器具の消毒実施。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>家庭らしく花等を飾ったりしており、明るさを表現する事で気楽に入って頂けるようにしている。手摺り、スロープの設置もある。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>五感を刺激する為、共有スペースで生活する事が多く、台所等の音、臭い、テレビの設置、外の風景が見えるように中扉を開けている。そういう事で入居者個々が家庭という雰囲気の中で、安心へと繋がっていけるよう取り組んでいる。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にベンチ置き、自由空間を作っている。居間にて入居者同士の会話も多く見られる。(軽作業を通じて)</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前本人と家族が居室等見て頂き、決めて頂いている。以前から本人が使用していた物を置いたり、家族の方々が持って来たりと好みの物を置く事で、安心したりと住み心地の良い環境作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後の換気。夜間の温度、湿度管理。冬期間の加湿器の設置。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる物を除去するように配慮している。手摺りの設置、バリアフリー構造で廊下も広く作られている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の出来る事を行って頂き、役割りを持った生活を送って頂いている。(洗濯物たたみ、裁縫、台所仕事等)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、畑にて季節感を感じて頂いている。又、一緒に作業し楽しみを共有している。ベンチを設置しており、誰でも休息出来るよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・以前までバイタル、感染症対策チームと分けて、チーム数名で活動してきたが、今年度から保健委員会として1つのチームで環境、健康面、生活全般について取り組んでいる。(気づきからの学びを共有する)
- ・行事を重ねる事に、家族間、職員、家族間の繋がりが深まり、又、協力的でもあり気兼ねない関係性が構築されている。
- ・入居者個々がお互いに自分の役割を持って、自分のペースにて生活出来る空間がある。